



第546号

学校だより

7月号

横浜市立東本郷小学校

令和4年6月30日

ひとにやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子

子どもたちとともに感じ、考える

学校長 堂腰 康博

「校長先生、はい、これあげる。」朝、門の前で子どもたちの登校を迎えていると、花びらや葉、実や種など季節のプレゼントをよくもらいます。花の形が面白いとか、フカフカしていて触ると気持ちいいとか、いい匂いがして病みつきになるとか、子どもたちは五感をいっぱいを使って、わたしのところに届けた理由を上手に伝えてくれます。

6月になると、見せてくれるものは生きものに代わってきました。握りしめた両腕を差し出しながら「校長先生、右と左どっちの手に入っているか、（中にあるものは秘密）当ててみて。」「右手だ！」と答え、握っているグーを開いてもらうと、丸くなった50匹以上のダンゴムシが掌からこぼれ落ちそうになっていて、驚かされることもありました。「何やってんの？」好奇心旺盛な子どもたちが輪に加わってくると、周りとのコミュニケーションが活発になってきます。「俺、ダンゴムシが隠れている場所を知っているから、このくらいならすぐに捕まえられるよ。」ライバル心を表して張り合ってみたり、「みんな生きているから、そうっと触ってあげるんだぞ。」上級生らしくアドバイスしてみたりと、短いひとときですが、季節のプレゼントを囲んで、子どもたちが伝え合う楽しさを味わい、言葉の感覚を豊かにする素敵な時間となっています。

6月17日（金）ピースメッセンジャー都市横浜の小中学生が、国際平和に対する思いを発信する「よこはま子ども平和スピーチコンテスト」緑区審査会が開催されました。学校代表として6年4組の児童が出場し見事なスピーチを披露しました。スピーチでは、自らの体験に基づいて差別や偏見のない社会を築いていきたいと訴えるとともに、具体的に行動するための覚悟を自分の言葉で発信しました。伝えたいことが相手に伝わるようにするにはどう主張すればいいのか、最後まで考え抜いて原稿をまとめ練習を重ねてきましたが、わたしが感心したのは、彼女が聴衆の反応を確かめながら、説得力のある話し方でスピーチしていたことです。

きっと普段のご家族との会話の中や学校での授業の中で、彼女が話をしたときに、うなずいてもらえたり、温かい言葉で応答してもらえたりしてきた経験が生かされたのだと思います。自分の伝えたいことを表現することは楽しい、聴いてくれる人がいてくれて嬉しい、そんな手応えが本番のスピーチをより素晴らしいものにしたのだと思います。（学校だよりに全文を掲載しています。）

子どもたちは、毎日誰かに話したくなるような経験にたくさん出会っています。聴いてほしいときにじっくりと聴いてくれる人を求めています。話し手にとって、安心して話せる「よい聴き手」に自分はなれているのか、を心に留めながら、今日も子どもたちの登校を門のところで迎えています。



緑区全小学校の代表児童を前に
堂々とスピーチをする児童